

「森銑三刈谷の会」だより 34(2024/8/17)

発行 2024/8/17 (月刊・メールでの投稿歓迎)
例会 第3土曜日 14:00-16:00 市中央図書館 参加自由

バックナンバー 刈谷市中央図書館>森銑三刈谷の会
共同代表 神谷磨利子・鈴木 哲 tetsu_s@katch.ne.jp

34:2024/7/20(土) 長嶋秀雄「森銑三未発表
草稿『子供等のこと』を読む」

森銑三未発表草稿『子供等のこと』を読んで

長嶋秀雄

高木浩明氏から神谷磨利子さんへ、草稿『子供等のこと』のコピーが送られてきて、「読んでください」と依頼され、今回の発表になった。昨年、高崎南小学校時代の「小さな星」への取り組みとそのことによる解雇を知り、教育に対する森銑三の強い思いを学ぶことができた。高崎南小学校と亀城小学校との違い、特に校長の熊木直太郎への尊敬の念が強く感じられた。

「浪々の身となって半月ほど立った四月半ば・・・」で始まる草稿は、色々と直しながら書き上げていく過程が目に見えて、未完成作品の生々しさが良く伝わってきた。「遊んでゐる」「遠くの方から」「いちって見たり」といった銑三拘りの旧仮名遣いが随所に見られるのも、本になったものを読むのとは違った楽しみがある。

校長からは解雇を通知されたが、子供等や学校には関わってほしいという作者の思いがストレートに表現されている。

「先生、又上がったんです可？」と無邪気に聞く子供等に泣き出したり、「放り出されたんですもの」と子供等についてしまう私。

ちょいちょい学校へ遊びに行くと、その度に「先生」と寄って来る。話している内に「校長先生に頼んだら」などと子供にたしなめられ、「困ったな」と頭をかく私。

「一寸帰国することになって」高崎から刈谷へ帰る前に、別れの挨拶をして、「手紙をくださいね」といふがなかなか思うようなものは来ない。離れて余計に子供等のことが思われ、「子供と私の交接を記念に書いておかうと思った」と締めくくられている。まだまだこの続きがありそうで、まだ何か書きたいことがあったのではないかと想像される。

尋常小学校の頃 史料編纂所 森銑三

亀城小学校『創立六十周年記念号』より
誰しも自分が受けた教育を典型として考えるものであるが、森銑三にとっての理想の教師が熊木直太郎であったのであろう。

一年生の銑三らが桃太郎や舌切雀の話やグリム童話

を喜んで聴いた熊木先生の巧みな話しぶり。三年生頃に、蓄音機に「刈谷尋常小学校校長 熊木」で少し間を置いて一段と声を高めて「ナオタロー」と尻上がりに大きく引っ張ったのを聴いて教室中が笑い転げた。他の先生方も子供等に親しげに接していて、亀城小学校の良い思い出になっている。高崎南小学校時代の学校の雰囲気は時代が戦争に向かっていくこともあり、統一が基本となっていたので、違いが大きく感じられたのであろう。

子守教育の熊木直太郎先生

『森銑三著作集 第十二巻』pp.408-411 に、明治時代の文部大臣井上毅の『梧陰存稿』に「熊木直太郎の傳」の一文があったことを書いている。小垣江小学校には「小垣江覺」という扁額があるが、「覺」は「校」のことである。是は「正三位井上毅」と揮毫者の名があり、子守教育の素晴らしさを讃え寄贈されたものである。このことを誇らしげに書いている。

詳しくは『かりや』36号、加藤修・竹中兼利「熊木直太郎の子守教育」・『かりや』5号、久野あい「郷土が生んだ教育者熊木直太郎先生」をご覧ください。

「熊木先生は、私等には、絶対尊敬の対象だったのである。」

「熊木先生は、今もなほ私等の記憶の裡に生きて、私等に働きかけてゐて下さることを感ずる。」と書いている銑三は幸せである。自分の出会った子供等ともこのような関係を結べたらと願っているであろう。その気持ちがこの草稿『子供等のこと』には込められている。

学校西 400mに高崎公園、西北西 40kmに浅間山

鈴木哲

原稿草稿は「行」「可」など癖が知られる。高崎市南小学校代用教員退職直後で1922年である。「西側の窓」「公園の木立」「浅間」に興味を持った。地図で確かめると、学校西 400mに高崎公園、西北西 40kmに浅間山があった。

資料『刈谷市立亀城小学校創立 150 周年記念誌』(2024)の亀城小学校校歌(1917)「五千人仞」は「五千人仞」、「われに」は「われらに」が正しい(鈴木「森三郎と『一二三会の歌』」『かりや』33(2012):94)。記念誌で「尋常小学校の頃」が原文と異なるのは残念だった。

『子供等のこと』から伝わる銚三の高崎時代の思い

飯田芳子

高木弘明氏より神谷磨利子さんへ送られたという『子供等のこと』（森銚三）の輪読を聞きながら高崎時代に銚三が味わったであろう、子供たちへの愛おしさ、果たせなかった思いと挫折感が惻々として伝わってきました。銚三が書き残しておこうと筆を執った心持に触れる機会を得られたことはかけがいのない事でした。また亀城小学校創立六十周年記念号からの抜粋。大野一造と森銚三の熊木直太郎校長の話は秀逸でした。味わいのある地味豊かな人柄を彷彿とさせながら気骨ある精神性を伝えるに十二分であったと思います。楽しい講座でした。

小垣江と子守教育

神谷美恵子

小垣江に住んでいます子供が小さかった頃教育に熱心な地域だと何となく感じていました。今回の話で子守教育の下地があったのだと納得しました。学びたい時に学べる事は有難い事です。

小垣江小学校の井上毅揮毫扁額

神谷明子

銚三の会、毎回ワクワクしながら参加しています!!今回は熊木直太郎についての話でした。小垣江小学校の校長室に飾ってある井上毅の揮毫「小垣江黌」と認めてあったように記憶しています。「黌」の文字はちょっとわかりにくいですね。太くて伸びやかな文字でした。小垣江の子がこの書のようにとの思いもあったのでしょうか!小垣江村が先進的な教育をしていたことを誇りに思います

銚三の会では頂いた資料を読み合いながら進めてくださるから、資料が生きます!!貰うだけだと積ん読になり勝ちです。旧字体や仮名遣いがわかるから楽しいです。発言するのは勇気が要るけど、本読みは楽しいです。

長瀧さんの発表をお聞きして

河橋育実

長瀧さんは凄いなって思いました。難解な原稿を解説していただいたので良く分かりました。「か」を「可」と書くのは万葉仮名みたいと思ってしまいました。

高崎でも銚三さんは子ども達を温かい目で見ていますと文章から伝わってきます。

銚三さんの子ども時代にユーモア溢れる熊木直太郎先生に教えてもらった事も、銚三さんの温かいお人柄を作った要因の一つでしょうか?

長瀧さん、ありがとうございました。

「別れて来たこどもらへ」（亀城、1919）と「子供等のこと」（高崎南、1922）

神谷磨利子

「子供等のこと」草稿には、No. 15（2022/11/19、長瀧さん）で読んだ「誂れた教師の手記」（『上毛新聞』1922/4/16-5/4）のような激しさは無い。解職の辞令一枚で浪々の身となった後も高崎に残り『小さな星』を

続けようとしてかなわず刈谷に戻ることにした銚三の寂しさが見える。亀城尋常高等小学校を辞し『帝国民』の編集をしていた時の「別れて来たこどもらへ」には寂しい中にも明るさがあった。亀城の教育と熊木直太郎校長を結び付けていただき、教育観の流れが見えた。

森三郎刈谷市民の会から森銚三刈谷の会へ

子安重晃

当日は初めて森銚三刈谷の会に参加させていただき、ありがとうございました。森三郎刈谷市民の会「森三郎の作品を読む会」で楽しく勉強させて頂いております。「移り変わりの激しい時代だ、歴史をきちんと勉強して不変的な本質を学習したほうがいい」と、神谷先生の門を叩きました。皆様の知識や経験を学ぶ、絶好の機会をありがとうございます。

参 考 (神谷磨利子)

森銚三「『小さな星』の作品」（『子どもの館』1974/4）

・公園のふんすゐ 尋五 桑山ハナ

五年生になって、/西の校舎に/うつりました。/西の校舎のまどからは、/公園のふんすゐが/よく見えます。

・浅間山 尋五 佐々木武臣

浅間山がみばってる、/巻煙草すってみばってる。

「子供等のこと」原稿用紙 欄外の「十ノ廿松屋製」とあるのは本郷の紙屋・松屋の原稿用紙であろう（高木浩明氏と確認）。芥川龍之介が使っていた。

森銚三「現代教育に対する私見」（『著作集』続編第13巻）高崎南小学校校長と郷里の母校の熊木直太郎校長とについて比較し触れている（参照「森銚三刈谷の会」だより No. 16[2023/1/21]発表者・長瀧秀雄）。

予定

35:2024/8/17(土) 正木敦子・神谷磨利子「金子民雄(1936-)への書簡から探る森銚三と掃苔会」

〈関連行事〉2024/9/15(日) 13:30-刈谷市郷土文化研究会 談話会(中央図書館) 神谷磨利子「森銚三と『刈谷図書館所蔵 貴重図書目録』(1932)」

36:2024/9/21(土) 鈴木哲・河橋育実「森銚三(1895-1985)と外山滋比古(1923-2020)」

37:2024/10/19(土) 「『武玉川選釈』を読む」(仮)

38:2024/11/16(土) 鈴木哲「森銚三の西鶴『一代男』一作説と暉峻(てるおか)康隆(1905-2001)」

〈関連行事〉2024/11/23(土) 13:30-刈谷市郷土文化研究会文化講演会 塩村耕「村上忠順と森銚三」[仮題]

39:2024/12/21(土) 神谷磨利子「森銚三(1895-1985)と師・井上通泰(1866-1941)」